

プログラム科目 消化器内科

診療部長

川崎俊彦

指導医

- 川崎俊彦 教授
- 水野成人 教授（内視鏡部）
- 奥田英之 診療講師

指導補助医

- 木下大輔 診療講師
- 秦 康倫 診療講師
- 河野 匡志 医学部助教 A

診療内容

消化管疾患

上部消化管（食道・胃・十二指腸）、下部消化管、小腸の腫瘍性疾患、炎症性疾患などを対象としています。診断面では、スクリーニングの内視鏡から精密検査まで幅広く行っており、画像強調観察や拡大内視鏡観察を用いた消化管癌の早期診断に力を入れています。小腸カプセル内視鏡やバルーン小腸内視鏡、超音波内視鏡（EUS）も実施しています。治療面では、早期癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）に積極的に取り組み、大腸ポリープへの粘膜切除術（EMR）、ポリペクトミーも多数行っています。また、消化管出血に対する各種止血術も重要な位置づけです。

肝疾患

ウイルス性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎など様々な肝疾患に対する診断と治療を行っています。特に最新のインターフェロンフリーの内服剤による C 型肝炎に対する治療は外来で実施可能であり、患者さんに好評です。また、肝癌に対しては造影エコー法を含めた早期診断と肝動脈塞栓術・ラジオ波焼灼療法などによる治療を行っています。血管造影は年間約 70 例、ラジオ波焼灼は年間約 30 例実施しています。最近では進行肝細胞癌に対する、内服の分子標的治療薬による治療も積極的に行っています。

胆膵疾患

膵癌をはじめとする膵腫瘍、胆道系腫瘍、胆道結石症、炎症性疾患などを対象としています。診断面では、CT、MRI、腹部エコーなどによる正確な画像診断に努め、超音波内視鏡（EUS）や穿刺生検

(EUS-FNA)、内視鏡的胆膵管造影(ERCP)による細胞診を積極的に行っています。治療面では、内視鏡的乳頭切開術(EST)を応用した胆管結石除去術や胆道ステント留置術などを年間に200件以上実施しています。

認定施設

現在、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本膵臓学会、日本超音波医学会の認定施設です。

専門研修医の勤務

消化器内科ローテーション中は、スタッフに準じた勤務となります。病棟で主治医として5～8名の患者を受け持ち、治療方針の決定や患者・家族への対応を行います。卒後6年以上のスタッフが指導補助医としてつき、週に1回の消化器内科カンファレンス、指導医とのディスカッション、回診などによって診療をサポートします。消化管内視鏡検査、腹部エコー検査を週に1コマずつ担当してもらい、独立した診断ができることを目指します。また、治療内視鏡、膵胆道系内視鏡検査・処置、肝穿刺治療、血管造影検査には助手として携わり、習熟度に応じて術者として参加してもらいます。外来患者の診療も重要な研修であり、上級医にすぐコンサルトできる体制で、原則毎週1コマを担当してもらう予定です。当科では救急疾患も多いため、救急当直も重要な研修と位置づけています。上級医の指導を仰ぎながら毎月4回程度担当します。

外勤について

週一回、他病院での研修、診療を行うことが可能です。